

ファイル レポート日付	平成 年 月 日	東京信用調査株式会社 http://www.tokyobusiness.jp 本社：東京都千代田区岩本町2-11-3
----------------	----------	--

商号	株式会社 製造所	カ	マルマルセイウジヨ			
本店	東京都千代田区 三丁目 番地					
代表者	太郎	カ	マルマルタロウ			
	生年月日：昭和 年 月 日					
電話番号	03-1234-5678	U R L				
設立	昭和 年 月 日	創業	昭和 年 月			
資本金	20,000千円					
従業員数	25名					
業種	プラスチック成型加工及び金型製作					
仕入先	商事、工業、興産、鉄鋼、金属販売					
販売先	商事、工業、建材、工業、ステンレス					
取引銀行	ABC(東京)、DEF(お茶の水)、GHI信金(神田)					
業績	決算期：月、単位：千円					
	決算期	売上高	経常利益	純利益	配当	B/S
	03/3	366,383	8,657	14,394	0	有
	02/3	417,713	5,509	3,667	0	有
	01/3	505,552	1,322	1,322	1	有
財務状況	前期月商	30,532	自己資本比率	3.2	(%)	
	(最近月商)	(28,000)	借入月商倍率	1.2	(倍)	
	自己資本	8,844	金融依存度	80	(%)	
	有利子負債	368,077	(決算数字・推定値)			
評価	評点				格付	
	代表者(15)	10	収益力(10)	3	A	(75~99)
	業歴(5)	5	金融(10)	4	B	(60~74)
	規模(10)	4	財務(10)	4	C1	(55~59)
	基盤(10)	4	資金(15)	6	C2	(50~54)
	販売力(10)	4	成長性(5)	2	D	(36~49)
	加減点(+/-)		総合点(100)	46	E	(0~35)
調査状況	公開	要点拒否	全面拒否	面会不能	側調指定	
備考						
総評	最近の業績は落込みが激しく、赤字基調である。今期に入って受注は好転してきたものの、未だ採算は取れていない。 財務内容は繰り越し赤字で弱体である。金融機関や役員からの借入で支えているが、収益を改善させる手立てがまだない。 資産的裏付けは認められるものの動向には注意が必要である。					

本報告書の内容は極秘扱いとしてください。ご違反の場合は損害賠償の責を負っていただく場合があります。
なお、当社は本報告書について損害賠償の責は負いません。

特記事項・指定事項

--	--

役員・登記事項

役 職	担当業務(非常勤)	氏 名	備 考
代表取締役	会長	太助	代表者、実父
代表取締役	社長	太郎	
取締役	経理	経子	創業者一族
監査役		監子	
株 式 状 況	一株:500円、発行済み株数:40,000株		
主 要 株 主	経子 12,410株(62.1%) 太郎 4,370株 太助 若干		
株 主 総 数	5名		
資 本 系 列	同族		
関 連 企 業	(株) 興産、台湾有限公司 各社 太郎社長		
定 款 目 的	1. 電気部品の製造 2. プラスチック製品の成形加工 3. 全角号に付帯する一切の業務		
譲 渡 登 記	譲渡登記の有無 : なし 有り		

代表取締役

氏名	太郎	加	マルマルタロウ
現住所	神奈川県川崎市 5丁目25番地の21		
性別	男性 女性		
生年月日	昭和 年 月 日		
出身地	東京都		
最終学歴	都立 高校		
経歴	高校卒業後、プラスチック加工メーカーや金型メーカー数社に勤務して斯業を習得。 昭和60年 当社に入社 平成9年7月 取締役 平成11年7月 代表となり、現在に至る		
公職・兼職	特になし。		
経歴年数	業界経験	約20年	
	事業経験	約3年	
経営手腕	就任1年余で未知数ながら営業活動を中心に前向きに行っているとのこと。		
人物・世評	温厚、技術者タイプ。		
趣味	音楽		
家庭状況	妻、子供1人		
個人納税額	平成13年度分の納税公示額：該当なし。		
個人資産	現住所の自宅は会長(実父)名義。(登記確認済)		
備考	代表取締役会長・ 太郎(S . . 生)(現社長の実父)		

従 業 員 ・ 設 備

労務状況	従業員総数	24名(男子13名、女子10名)	
	常勤役員	3名(上記に含む 含まない)	
	総人数の変化	02/3	24名
		03/3	25名
	採用計画		
	労働組合	なし 有り	
	備考	その他パートを4名使用	
事業所	本社 (工場)	東京都千代田区	三丁目 番地
		土地	1,414.62 m ² (一族所有)
		建物	273.82 m ² (一部社有)
	大阪工場	東大阪市	町130番地
		土地	1,370 m ²
		建物	422 m ² 社有(未確認)
保有設備	射出成形機	15台	
	自動取出機	11台	
	超音波ウェルダー	4台	
	粉碎機		
	乾燥機		
	冷却機		
	車輛	15台内外	
	その他		
設備投資	最近は特に設備投資していない。		
	大阪工場が手狭になった為プレハブの増設を計画している。 10,000千円以下であるが、借入金の予定。		

沿 革

項目	年 / 月	変動事項
増資経過	昭和 年 月	1,800千円
	昭和 年 月	2,000千円
	昭和 年 月	4,000千円
	昭和 年 月	8,000千円
	昭和 年 月	20,000千円(現在)
沿 革	昭和 年時	前代表・ 次郎氏が表記地で紡績業を個人創業。
	昭和 年 月	紡績株として法人化。
	昭和 年 月	英×××社の下請となって×××工業株に社名変更。
	昭和 年 月	現業に転換すると共に現社名に変更。
	昭和 年 月	現会長が事業を継承。
	平成 年 月	現社長が就任し、現在に至る。

既 往 業 績

決算期	売上高	経常利益	純利益	利益率	配当	申告所得
97/3	652,880		10,028	1.5	0	公示外
98/3	689,420		11,158	1.6	0	"
99/3	608,867		20,815	欠損	0	"
00/3	568,187	1,465	4,454	0.8	0	"
01/3	505,552	1,322	1,322	0.3	0	"
02/3	417,713	5,509	3,667	欠損	0	"
03/3	366,383	8,657	14,394	"	0	"
-	決算期:3月、単位: 千円、百万円					
決算公開	公開、 一部のみ公開、 外部入手、 非公開(入手不能)、 側調指定					
企業特性	<p>紡織業から昭和 年 月に現業に移行、以後、技術力を根底に大手先を確保しつつ展開してきた。</p> <p>創業者 一族と 一族は親族関係にあり、同族色の強い企業体である。</p>					
既往業績	<p>50年近い社歴となるが、やはりその間には業績の浮沈もあり、現業転換も決して順調とは云えず、バブル崩壊後は減収傾向に歯止めがかかっていない。</p> <p>10/3期には減価償却見送り分など約25,000千円の償却をして赤字を計上した。</p> <p>11/3期は再度償却を見送り若干の黒字とした。</p> <p>12/3期は数量ペースではやや上回ったものの引続きコストダウン要請が相次いで売上減となり、経費を削減して何とか黒字を確保した。</p> <p>13/3期は後半にかけて景気が落ち込み受注減となった為、赤字に転落した。</p> <p>14/3期は不況の影響は 建設の仕事がなくなり、前期比12.3%の減収となり、経費をカバーできず再度営業赤字となった。さらに過去の不良債権等特別損失9,520千円を計上した為、純損失は増加した。</p>					

現況と見通し

今期の決算予想(目標)				
事業年度		売上高	収益動向(経常 税引)	
前期実績	03年3月期	366,383	8,657	
今期予想	04年3月期	330,000	増益	横這い 減益 赤字
	前期の平均月商	30,532		
	最近の平均月商	28,000		
最近の月商推移		最近の月間損益概況		
年/月	月商	最近月商	28,000	利益率(%)
03/4		売上総利益	5,300	18.9
~	3ヶ月間	販売管理費	5,300	
03/6		営業利益	0	
		営業外損益	500	
3ヶ月間合計	85,000	経常利益	500	欠損
平均月商	28,300			
(一人当月商)	1,132	(一人当月間粗利)		
-	単位: 千円、百万円			
事業内容	<p>OA、通信機器、医療機器等、精密プラスチック部品の成型加工を主力とし、特殊構造プラスチック用金型の製作にも対応している。</p> <p>OA、通信機器の不況で医療健康機器向けのウエイトが増加している。今のところ新規事業の計画はなく、既存の顧客からの受注量を増やすとともに採算のよい仕事に注力していく意向である。</p>			
売上状況	<p>03/3期は今までの主力であった 建設の仕事がなくなった為、前期比13.3%の減少となった。</p> <p>今期に入って受注は好転して底打ち感はあるものの後半は見通し難しい。</p>			
収益動向	<p>03/3期は売上減少に経費削減が思うように追いつかず、粗利率は5.6%と大幅に落ち込んだ。しかし、金利負担は変わらず大きく、貸倒損失を8,665千円を償却するなどした為、純損失は14,394千円となった。</p>			
見通し	<p>今期は一頃よりは好転してきたものの採算が取れるまで入っていない。</p> <p>得意先から安定した受注が確保できるかまだ不透明であり、収益力がつくには時間を有する。</p>			

銀行取引

取引銀行(支店)	割引手形	短期借入金	長期借入金	固定預金	担保など
ABC(東京)					
DEF(横浜)	76,820	80,860	146,397	5,483	
GHI信金(東大阪) 役員一族					
合 計	76,820	100,860	190,397	5,488	
-	上記は2003年3月現在、単位：千円、百万円。				
銀行信用度	良好	先ず普通	やや弱い	弱い	借入なし
銀行外借入	有り				
主力行変更	なし				
取引の状況	ABCをメインにして長年の協力を得ている。DEFは統合で××支店が東××支店に変わった。 前期末で当座借越しが3,332千円在るので短期借入金に含んでいる。 役員一族からの借入は13/11月で返済する予定であったが、持越している。				
銀行の見解	ABC(東京) 前期は悪かったが、最近は回復している。 資金面は検討して出来るだけ協力していきたい。				
備考	保証協会による保証はABC20,000千円内外、DEF10,000千円内外の計30,000千円内外の利用である。				

財 務 分 析

項目		01年3月期	02年3月期	03年3月期
損 益	年間売上高	505,552	417,713	366,383
	(平均月商)	(42,129)	(34,809)	(30,532)
	年間売上原価	409,695	347,055	325,082
	(平均原価)	(34,141)	(28,921)	(27,090)
	売上総利益	95,857	70,658	41,301
	営業利益	12,825	7,391	2,706
	経常利益	1,322	5,509	8,657
	純利益	1,322	3,667	14,394
	支払利息	2,981	7,045	7,053
	純支払利息	7,060	7,037	7,047
資産負債	流動資産	282,646	193,237	151,205
	当座資産	(180,699)	(111,873)	(90,025)
	棚卸資産	(71,528)	(53,649)	(46,245)
	固定資産	289,555	260,074	259,181
	流動負債	342,914	218,296	196,076
	固定負債	202,282	211,777	205,466
	自己資本	27,005	23,238	8,844
	総資本	572,201	453,311	410,386
	受取債権	103,558	95,099	78,222
	支払債務	88,228	74,127	64,753
有利子負債	割引手形	98,487	69,685	76,820
	短期借入金	30,486	71,518	100,860
	長期借入金+社債	187,798	189,380	190,397
	(有利子負債)	(316,771)	(330,583)	(368,077)
収益比率	売上総利益率	19.0 %	16.9 %	11.3 %
	営業利益率	2.5 %	1.8 %	0.7 %
	経常利益率	0.3 %	欠損 %	" %
	純利益率	0.3 %	" %	" %
静態比率	流動比率	82.4 %	88.5 %	77.1 %
	当座比率	52.7 %	51.2 %	45.9 %
	固定比率	107.2 %	111.9 %	293.1 %
	固定長期適合率	126.3 %	110.7 %	120.9 %
	自己資本比率	4.7 %	5.1 %	2.2 %
動態比率	受取債権回転率(期間)	4.8回 76日	4.4回 83.0日	4.8回 76日
	支払債務回転率(期間)	5.7回 64日	5.6回 65日	5.6回 65日
	棚卸資産回転率(期間)	7.1回 51日	7.8回 47日	7.9回 46日
金融依存	有利子負債÷月商	7.5 倍	9.5 倍	12.0 倍
	有利子負債÷総資本	55.4 %	72.9 %	89.7 %
	割引手形÷回収手形	48.7 %	62.5 %	85.0 %
	純利息÷売上高	2.2 %	2.2 %	2.6 %
	支払利息÷有利子負債	4.1 %	3.0 %	2.6 %
備 考	単位: 千円、百万円。	当社公表、	外部入手	

資 金 繰 り

チェック項目		A	B	C	D	E
業 況	売上状況	大幅増加	やや増加	横 這 い	やや減少	大幅減
	収益動向	良 好	先ず普通	低 収 益	やや悪い	悪 い
資 金 需 要	回収状況	良 好	先ず普通	-	やや不良	不 良
	受払期間	回収優位	ほぼ均衡	-	やや不利	不 利
	棚卸負担	なし・軽い	多少程度	-	やや過大	過 大
	固定負担	なし・軽い	多少程度	先ず相応	やや過重	過 重
	他の需要	なし・軽い	多少程度	先ず相応	やや旺盛	旺 盛
資 金 手 当	自己資本	充 実	やや充実	先ず相応	やや軟弱	債 超
	金融依存	なし・軽い	多少程度	先ず適正	やや高位	高 位
余 力	担保余力	充分あり	多少あり	余力小	ほぼ限度	な し
	借入余力	充分あり	多少あり	余力小	ほぼ限度	な し
	支払余力	充分あり	多少あり	余力小	不十分	な し
金融依存	03年 3月現在、単位：千円、百万円					
	平均月商	30,532	自己資本比率	3.2	%	
	自己資本	8,844	借入月商倍率	12	倍	
	有利子負債	368,077	金融依存度	80	%	
	総 資 本	(決算数字・推定値)				
評 価	無難 当面無難 多少注意 やや不安 不 安					
財 務 内 容	収益が低調であり、前期の大幅赤字で資本金に食い込み自己資本は8,844千円となった。固定負担は重く手許資金にしわ寄せがきており、期末現預金は5,854千円にすぎない。資産的裏付けはあるものの担保余力に欠ける。					
資 金 繰 り	支払先行であり、手形回収の割合が増加したので回収負担が重く、在庫も月商の一ヶ月分以上となっている。収益が悪化したので割引利用が増える他借入金も増加した。資金繰りに余裕はなく金融機関からの資金調達もほぼ限界であり、厳しい資金繰りが続かざるをえない。					

